

大きな声でただひたすら英語を読むこと

—一生使える英語を身につけるための基礎知識—

開倫塾

塾長 林明夫

1. はじめに

「なぜ日本の人はこんなにも英語を話すことが不得意なのか」と先日、中国の上海に出掛けたときに何人かの人から言われた。これから、ますます外国に出ることや、外国の人と単なる遊びだけではなく仕事をするとも増えると思われる。そのときに使われる言語は「英語」であると考えられるので、今回は、どうしたら一生使える英語がマスターできるかを考えたい。

*もちろん中国の人に接するときには、「中国語」、ベトナムなら「ベトナム語」、ラオスなら「ラオス語」、モンゴルなら「モンゴル語」の方が、それも、各国のその地方で使われている言葉の方が意思の疎通が上手にいくに決まっている。深くその国の文化や社会を理解するには、その国の言葉を基礎からしっかり勉強すべきである。だから是非、小学生であろうと学びたい国の言語はしっかり勉強して欲しい。しかし、何といてもどこの国に行ってもある一定レベル以上の人には必ず通じる共通語は英語である。日本に来る人すべてが日本語をマスターしている訳ではないが、日本人が外国に行く場合と比べかなり多くの方が英語を上手に話すことは、よく知られてきた。どうしたら、英語を母国語としない外国の人で日本に来ている人と同じレベルで英語が使えるようになるかが今回のテーマなのでよく読んで、できることから、どんどん実行に移して頂きたい。この文章をお読みの保護者の皆様で、英語を是非勉強したい方も、今からでも遅くありませんから、残りの50年の人生を充実して生きるためにも、この文章を参考に英語に取り組んでいただきたい。

2. ただひたすら読むこと（只読）のススメ

とにかく大きな声でゆっくりでもいいし、速くてもいい、自分の好きなスピードで、ただひたすら英語のテキストを読むこと。時間を何分とか決めないで、気が向いたら、何十分でも、何時間でも英語の本を大きな声を出して読むこと。これが一番よい。

できれば、よく意味のわかった学校や塾の教科書を読むとよい。一度習ってよくわかっているものであれば、これはどんな意味だろうとか、文法的にはどうかとか、めんどうなことを考える必要はないので、とにかく読んでいて楽しい。

中学3年生や高校生くらいになるとなかなか難しいこともときどき書いてあるから大変かもしれないが、中学2年くらいまでなら、教科書は全部覚えてしまうとよい。一行ずつ何十回も暗誦すること。学校や塾で一つの課を勉強し終えたら、必ずその課の最初の行から大きな声で読みながらいねいに覚えていくことをおすすめする。一つの文を何回も見ながら読み、よく言えるようになったら、今度は見ないで5～10回言ってみる。完全に見ないで言えるようにまでしたら、次の一文

をまた、教科書を見ながら読んでみる。よく読めるようになったら、見ないで言うようにする。見ないで言えるようになったら、最初の文と合わせて見ないで言うようにする。二つの文を見ないでスラスラ言えるようにする。二つの文が見ないで言えるようになったら、三つ目の文を大きな声で読んでみる。よく読めるようになったら、三つ目の文も見ないで大きな声で言うようにする。よく見ないで言えるようになったら、一つ目の文、二つ目の文と合せて、三番目の文まで一気に見ないでスラスラ言えるまでにする。

このような形で、たえずその課の最初の文までたちかえって、スラスラと口をついで1課分が出てくるようにするとよい。これは難しそうだが、やってみると意外とやさしい、また楽しくできる。

最初の課が終り、次の課に入るときには、最初の課を大きな声でただひたすら読んでから、新しい課にすすむとよい。第3課に入るときは、第1課と第2課をただひたすら大きな声で読んでから第3課の内容を最初の文章からすべて覚えこむようにするとよい。このようにして、最後の課まで一年かけて勉強すると、あと80年間ほとんど忘れない。一生使える英語が身につく。

*高校3年生になっても、いつも中学1年生の教科書から大きな声を出して読んでおくことをおすすめする。高校1年生くらいの文が口をついでどんどん出てくれば、どんなに難しい大学にも合格する。11月23日の勤労感謝の日に足利商工会議所青年部の主催で「両毛クラシックラリー」が開かれ百台以上のクラシックカーが両毛地区120kmを走ったが、車の持主は出掛ける前、途中、終わった後と自分の車をたえず整備し、ピカピカにみがき上げていた。

クラシックカーを愛する人は「ものを大切に使う人だ」と思った。英語も同じで、一度勉強してから身につけた英語を一生かけて、クラシックカー愛好者が何日かに1回ワックスをかけピカピカにみがきあげたり、決められた距離を正確に走れるように車を整備するのと同じように、ていねいにていねいに英語にもたえず手をかけることが大切かと思う。

*中間試験や、期末試験でよい点が取りたかったら、十分学習したところをひたすら大きな声で読み、読めるようになったところから、どんどん覚えていくことが終わったら、試験範囲について何も見ないで書いてみる(つまり「暗写」する)ことをおすすめする。「暗写」が正確にできれば、5段階評価で3の人は4に、4の人は5に必ずなれる。「暗写」ができたなら、開倫塾でお渡ししている各種の予想問題集をどんどんやること。大事なことがよくわかり、よく読めるようになり、すべて書けるまでになっているのだから、ほとんど条件反射的に解答することが可能。問題集をやっても全部スラスラできるので勉強が楽しくなる。

*大人になってこれから、海外旅行に行く時には、行く2~3週間前になったら、中学、高校時代に勉強した英語のテキストを取り出して、一日何時間かひたすら大きな声で読むとよい。外国旅行中も、飛行機の中や、ホテルで時間があつたら、学校時代のを読んでみる。おどろくほど英語が口をついて出てくるはず。保護者の方でもう一度勉強をしておきたい方は、まずその手はじめに、中学1年生と、2年生の英語のテキストを大きな声でひたすら読んでみて下さい。中学1年生、2年生のテキストなら、意味もある程度わかるし、(わからなかったらお子様や塾の先生にきいて下さい)持ちはこびにも便利。

*もし、中学生のテキストがほしい保護者の方は、無料で差し上げますので、開倫塾の先生に御連絡下さい。

3. おわりに

まだまだいろいろな方法があるとは思いますが、今回は「ただひたすら英語の教科書を大きな声で読

むこと」が、一生使える英語を身につける第一歩であることを述べさせて頂いた。一点突破全面展開ということばがあるが、一つの簡単なやり方でも、5年10年と継続してやっていると大きな成果が上がる。学校時代の英語の教科書は一生使えるものなのでその学年が終わったからといって棄て去ることなく、一定の場所にキチンと保存しておくことも大事。